

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「自他の大切さを認め合い、共に生きる子供の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通して、学ぶ楽しさや
良さを実感し生涯にわたって学び続ける力を身に
付けた子供の育成～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 5年担任 樋口明世	委員 校長 小泉雅彦、教頭 住田克弘 大西明子 研修主任 山口由美 特別支援主任 西崎真由美
	1年主任 山口由美 2年主任 北原三代子 3年主任 三浦富美
	4年主任 田中慶子 5年主任 村岡佳子 6年主任 矢野彩

校長

小泉 雅彦



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 落ち着いた態度で学習に取り組む児童が多く、漢字や計算などは繰り返し学習することで定着を図ることができている。 ● 長い文章を読み取ったり、身に付けた知識を適切に使ったりすることに課題がある。	・習得した知識を、ほかの学習の場面等で活用することができる。 ・身につけた技能について、生活や他の学習の場面において活用することができる。	・多様な学習の記録(ノート、表現物等)が生まれるように工夫する。 ・興味をもって学習取り組むことができるよう、ICT機器を効果的に活用する。	・手本となる児童のノートを紹介したり、定期的にノートを評価したりするなど、ノート指導を行う。 ・つまずきやすい内容を明確にし、重点的な指導や反復練習を授業の始めや学年タイムにさらに行う。 ・教材・教具の工夫や開発を行うとともにICT機器の活用をさらに充実させる。	・ノート指導を行うことで、ノートの書き方を理解し、書くことに抵抗なく意欲的に書こうとする児童が増えてきた。また、ノートの書き方を紹介することでノートの使い方が理解でき、学力向上につながった。 ・学年タイムや家庭学習を活用し反復練習を行い、当該学年の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができた。 ・ICT機器を多くの場面で活用することで視覚的に分かりやすい授業づくりができ、興味関心を高めることができた。 ・タブレット端末を各学年に応じた活用の工夫をして使用し、各自のペースで調べ方を理解することができた。	・個に応じたスモールステップで反復練習ができるよう、つまずきやすい内容を明確にし、反復練習を行っていく。 ・各学年で今年度指導に時間を要した単元や、効果的な指導教材を引き継ぐ。 ・身に付けた知識等を実際の生活の場面で活用できるよう、指導計画を工夫していく必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 方法や手順が分かる学習には意欲的に取り組むことができる児童が多い。 ● 目的や意図に応じて、必要な情報を選んだり、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・自分の考えを明確にもち、場に応じた言葉遣いで話すことができる。 ・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決方法を考えることができる。	・語彙を豊かにするために、教師の話、資料・書籍、掲示物等を充実させる。 ・様々な資料から情報を出し合わせたり、考え方を比較させたりしながら、協働的な学びの場を充実させる。 ・感染症対策を講じた上で、ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。	・感染症対策を講じた上で、ペア学習やグループ学習を設定し、他者の意見を取り入れる場面を増やす。説明するときの定型を示し、説明力を養う。 ・深い学びになるような発問の工夫をする。	・コロナ禍で他者の意見を取り入れる場面を積極的には行うことはできなかったが、定型をしめすことで、少人数の中では自分の意見を言える児童が増えた。 ・自分の考えに対する根拠や理由を考えることができる児童が増えてきた。発問の工夫をさらに行っていく。 ・タブレット端末を活用することにより、たくさんの情報を得ることができ、さらにその知識をもとにした考えを導き出すことで深い学びにつながった。	・引き続き感染症対策を講じた上でペア学習やグループ学習の機会を設け、自分の考えや思いを表現し、課題を解決する力をつけていく。 ・ICT機器の効率的な活用を教員が共有していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 与えられた課題はほとんどの児童が真面目に取り組むことができる。 ● 難しい課題に対して見通しをもって取り組んだり、自主的に計画を立てて取り組んだりすることに課題がある。	・自分の課題を解決するために、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・読書に親しむとともに、興味のあることを進んで調べることができる。 ・家庭学習に主体的に取り組むことができる。	・毎時間めあてを設定し、何を学ぶことができたか振り返りができるようにする。 ・読書、音読、視写・聴写、短作文等、子供が楽しく反復できる手立てを増やす。 ・家庭学習の協力が得られるように、家庭と連携を取りながら啓発活動を行う。	・めあてをノートやワークシートに書いたり、振り返りを毎時間必ず行ったりする。 ・朝読の時間を必ずとり、課題が終わった時なども読書活動を推進したりする。	・めあてを明確に提示することにより、学習の見通しができ、集中して学習に取り組むことができた。 ・朝読の時間は習慣化し、休み時間や家庭でも進んで読書をする児童が増えた。 ・家庭学習には90%以上の児童が主体的に取り組むことができている。	・次年度も、毎時間めあてを設定し、振り返りを行うようにする。 ・学校全体で読書活動を充実させるような取り組みを行っていく。 ・ホームページを活用し、家庭への啓発を引き続き行う。 ・タブレットの持ち帰りを視野に入れ家庭学習の充実を図る。

令和3年度 学力向上ロードマップ



